

食品安全情報（微生物） No.19 / 2023（2023.09.13）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

(<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>)

目次

【世界保健機関（WHO）】

1. 世界保健機関（WHO）の「国際疾病分類（ICD: International Classification of Diseases）」と医薬品規制調和国際会議（ICH）の「国際医薬用語集（MedDRA）」が新たな連携を開始

【米国疾病予防管理センター（US CDC）】

1. アイスクリームに関連して複数州にわたり発生しているリステリア（*Listeria monocytogenes*）感染アウトブレイク（2023年9月1日付更新情報）
2. 米国の国内感染サイクロスポラ症患者に関する2023年の調査（2023年8月31日付更新情報）

【カナダ公衆衛生局（PHAC）】

1. 国外旅行に関連していないサイクロスポラ感染を調査中（2023年9月5日付更新情報）

【欧州疾病予防管理センター（ECDC）】

1. 赤痢 - 2020年次疫学報告書

【欧州委員会健康・食品安全総局（EC DG-SANTE）】

1. 食品および飼料に関する早期警告システム（RASFF: Rapid Alert System for Food and Feed）

【ドイツ連邦リスクアセスメント研究所（BfR）】

1. 発生は稀で予防可能な疾患：ポツリヌス症に関する Q & A

【ProMED-mail】

1. コレラ、下痢、赤痢最新情報（20）（19）

【国際機関】

- 世界保健機関 (WHO: World Health Organization)

<https://www.who.int/en/>

世界保健機関 (WHO) の「国際疾病分類 (ICD: International Classification of Diseases)」と医薬品規制調和国際会議 (ICH) の「国際医薬用語集 (MedDRA)」が新たな連携を開始
New collaboration between WHO International Classification of Diseases (ICD) and MedDRA launched

27 June 2023

<https://www.who.int/news/item/27-06-2023-new-collaboration-between-who-international-classification-of-diseases-and-meddra-launched>

世界保健機関 (WHO) および医薬品規制調和国際会議 (ICH) は、世界各国の医薬品に関する規制情報の登録・共有を促進するため新たな連携を開始することを発表した。

この取り組みの目的は、医薬品の安全性・有効性に関する国際的な規制についての政策決定を効率化するための共通言語を確立するとともに、世界各国の疾病および死亡の範囲・原因・影響について極めて重要な情報を提供することである。

WHO の「国際疾病分類第 11 回改訂版 (ICD-11)」と ICH の「国際医薬用語集 (MedDRA: Medical Dictionary for Regulatory Activities)」の接続によって共通言語を確立することで、有害事象の分析や、保険金請求データベース、死亡率・罹患率統計、臨床試験、観察研究などの結果の分析が強化される。

MedDRA は、ヒト用医薬品に関する規制情報の国際的な共有を円滑化するために ICH が策定したもので、内容が充実した特異性の高い標準化された医学用語集である。MedDRA は、医薬品の使用承認の前後に登録・情報管理・安全性モニタリングのために使用されている。

ICD-11 は、疾病および死亡に関する登録・報告・分析・原因の比較を行うための国際基準である。ICD-11 は、世界各国が重要な健康問題を特定し優先順位を付ける際に役立ち、効果的な公衆衛生政策の策定、被害推定、リソース配分、治療法の改善、予防対策および臨床記録を行うことが可能になる。

今回接続されるデータは、ICD によるクリエイティブ・コモンズ・ライセンス「CC-BY-ND (作品のクレジットを表示すること、改変禁止)」の許諾にもとづき WHO の Web ページで公的に入手可能となり、無料で利用でき、ICH から MedDRA 契約利用者への提供も行われる予定である。

【各国政府機関】

- 米国疾病予防管理センター (US CDC: Centers for Disease Control and Prevention)
<https://www.cdc.gov/>

1. アイスクリームに関連して複数州にわたり発生しているリステリア (*Listeria monocytogenes*) 感染アウトブレイク (2023年9月1日付更新情報)

Listeria Outbreak Linked to Ice Cream

Posted September 1, 2023 (Investigation Details のみ更新)

<https://www.cdc.gov/listeria/outbreaks/ice-cream-08-23/index.html>

<https://www.cdc.gov/listeria/outbreaks/ice-cream-08-23/details.html> (Investigation Details)

<https://www.cdc.gov/listeria/outbreaks/ice-cream-08-23/map.html> (Map)

米国疾病予防管理センター (US CDC) は、アイスクリームに関連して複数州にわたり発生しているリステリア (*Listeria monocytogenes*) 感染アウトブレイクに関する更新情報を発表した。

2023年9月1日付更新情報

疫学・追跡調査および検査機関での検査によるデータは、Ice Cream House 社 (ニューヨーク州 Brooklyn) で製造されたアイスクリームが本アウトブレイクの感染源となっていることを示している。

○ 検査機関での検査および追跡調査によるデータ

ニューヨーク市保健精神衛生局 (NYC DOHMH) は、Ice Cream House 社製のミニアイスクリーム製品 1 検体および同社施設で採取された環境由来の複数検体から *L. monocytogenes* アウトブレイク株を検出した。Ice Cream House 社の製品と Real Kosher Ice Cream 社のカップ入りアイスクリーム「Soft Serve On The Go」は同一施設で製造されている。

○ 公衆衛生上の措置

2023年8月30日、Ice Cream House 社は、「Ice Cream House」のロゴ表示がある乳製品のアイスクリームおよび乳製品ではない冷凍デザート¹の全製品の回収を開始した (以下 Web ページ参照)。CDC は、回収対象のアイスクリーム製品を喫食・販売・提供しな

いよう注意喚起を行っている。

<https://www.fda.gov/safety/recalls-market-withdrawals-safety-alerts/ice-cream-house-voluntarily-recalling-all-dairy-ice-cream-products-and-non-dairy-parve-frozen>

(食品安全情報 (微生物) No.18 / 2023 (2023.08.30) 、No.17 / 2023 (2023.08.16) US CDC 記事参照)

2. 米国の国内感染サイクロスポラ症患者に関する 2023 年の調査 (2023 年 8 月 31 日付更新情報)

Cyclosporiasis Illnesses in the United States, 2023

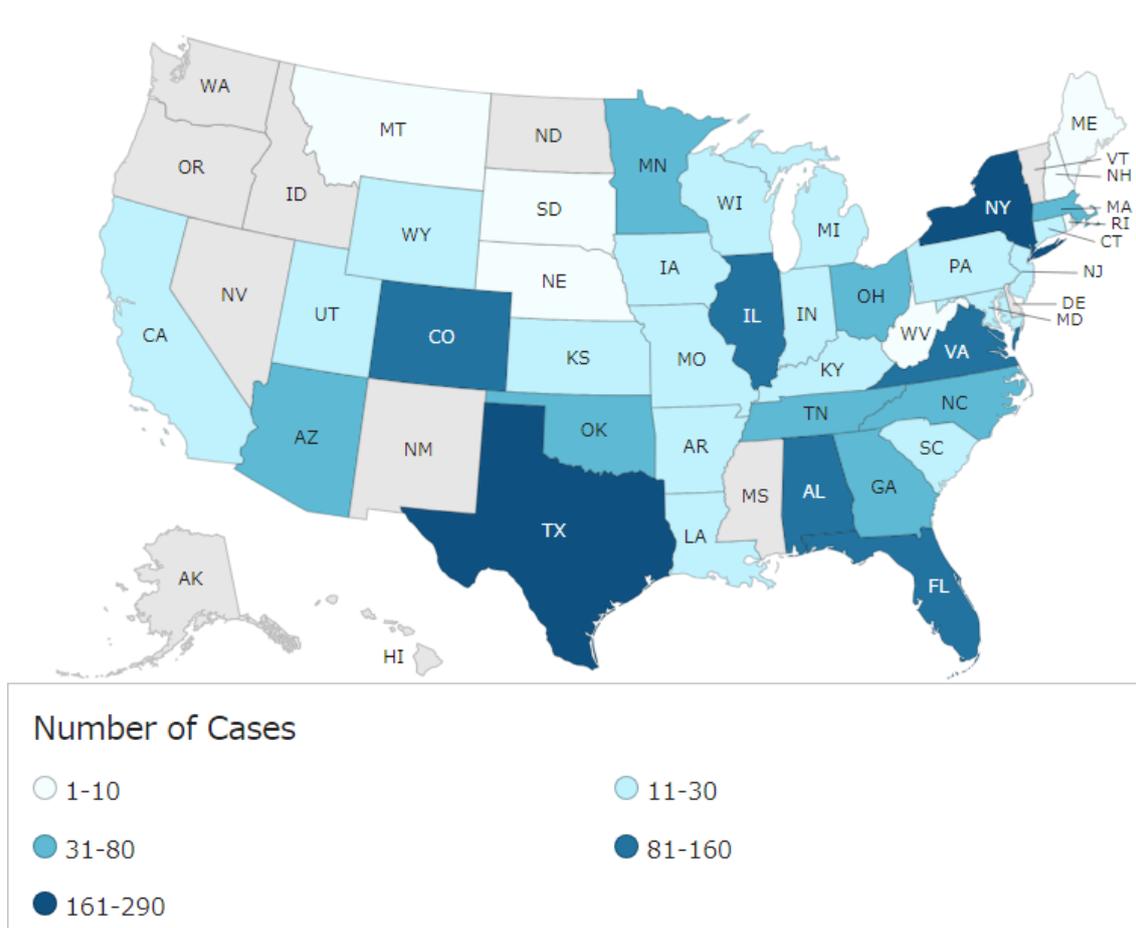
AUGUST 31, 2023

<https://www.cdc.gov/parasites/cyclosporiasis/outbreaks/2023/index.html>

米国疾病予防管理センター (US CDC) は、各州および連邦の公衆衛生・食品規制当局と協力し、共通の原因食品に関連したサイクロスポラ症アウトブレイクを探知するため、米国内のサイクロスポラ症患者のモニタリングを行っている。米国では年間を通じてサイクロスポラ症患者が報告されており、その患者数は春季および夏季の数カ月間に増加する。2023 年は 4 月に CDC に患者が報告され始めた。

2023 年 8 月 29 日までに、検査機関でサイクロスポラ感染が確認された患者計 1,957 人が 39 州およびニューヨーク市から報告されている (図)。これらの患者は発症前 14 日間に国外旅行をしていなかった。患者数は、2023 年 7 月 27 日付更新情報以降に 894 人増加した。

図：2023年4月1日以降に発症した国内感染サイクロスポラ症患者の居住州別患者数
(2023年8月29日時点の計1,957人)



患者の年齢範囲は2～96歳、年齢中央値は50歳で、58%が女性である。発症日の中央値は2023年6月23日（範囲は4月1日～8月22日）である。情報が得られた患者1,932人のうち153人が入院した。死亡者は報告されていない。

地域・州の公衆衛生当局、CDCおよび米国食品医薬品局（US FDA）は、可能性がある複数のサイクロスポラ症患者クラスターを調査している。報告患者計1,957人には、FDAが調査中の患者クラスターに属する患者が含まれている。可能性がある感染源を特定するため調査が進められている。

（食品安全情報（微生物）No.16 / 2023（2023.08.02）US CDC 記事参照）

- カナダ公衆衛生局 (PHAC: Public Health Agency of Canada)

<https://www.phac-aspc.gc.ca/>

国外旅行に関連していないサイクロスポラ感染を調査中 (2023年9月5日付更新情報)

Non-travel related *Cyclospora* infections under investigation

September 5, 2023

<https://www.canada.ca/en/public-health/services/public-health-notice.html>

2023年9月5日までに、サイクロスポラ症患者計363人が、オンタリオ州(301人)、ケベック州(39)、ブリティッシュ・コロンビア州(21)、ノバスコシア州(1)およびニューファンドランド島(1)から報告され、調査が続けられている。7人が入院し、死亡した患者は報告されていない。患者の54%が女性で、患者の年齢範囲は1~97歳である。回収は実施されておらず、公衆衛生通知は発表されていない。

カナダでは毎年、国外旅行と関連のないサイクロスポラ症患者がカナダ公衆衛生局(PHAC)に報告されており、その報告数は春季および夏季に増加する。PHACは公衆衛生・食品安全当局と協力し、感染経路を調査している。過去の事例では、包装済みミックスサラダ、バジル、シラントロ(コリアンダー)、ベリー類、レタス、サヤエンドウ、スナックエンドウなどの様々な種類の輸入生鮮農産物がサイクロスポラ症患者に関連していた。

(食品安全情報(微生物) No.18/2023 (2023.08.30)、No.17/2023 (2023.08.16)、No.16/2023 (2023.08.02)、No.15/2023 (2023.07.19)、No.14/2023 (2023.07.05) PHAC記事参照)

-
- 欧州疾病予防管理センター (ECDC: European Centre for Disease Prevention and Control)

<https://www.ecdc.europa.eu/>

赤痢 - 2020年次疫学報告書

Shigellosis - Annual Epidemiological Report for 2020

8 Sep 2022

https://www.ecdc.europa.eu/sites/default/files/documents/AER_2020_SHIG_final.pdf (報告書PDF)

<https://www.ecdc.europa.eu/en/publications-data/shigellosis-annual-epidemiological-report-2020>

欧州疾病予防管理センター（ECDC）は、「赤痢 - 2020 年次報告書」を発表した。内容の一部を以下に紹介する。

主な内容

- ・ 赤痢は欧州連合／欧州経済領域（EU/EEA）では比較的まれな疾患であるが、一部の国々や一部の集団では依然として懸念される問題である。
- ・ 2020 年には、EU/EEA 加盟 29 カ国から赤痢の確定患者が計 1,806 人報告された。
- ・ EU/EEA 全体での人口 10 万人あたりの報告率は 0.7 であった。これは直近 5 年間で最も低く、英国の EU からの離脱および新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミックの影響による可能性がある。
- ・ 報告率が最も高かった年齢層は「0～4 歳」の小児で、次が「25～44 歳」の男性であった。「25～44 歳」の年齢層における報告率の性差には、男性間性的接触者（MSM）での性的感染が寄与していると考えられる。

方法

本報告書は、2021 年 11 月 5 日に欧州サーベイランスシステム（TESSy）を検索して得られた 2020 年のデータにもとづいている。TESSy は、感染症に関するデータの収集・分析・発信を行うためのシステムである。

本報告書に用いられた方法の詳細、各国のサーベイランスシステムの概要および今回使用されたデータのサブセットについては、ECDC の下記の各 URL から入手可能である。

<https://www.ecdc.europa.eu/en/surveillance-and-disease-data/annual-epidemiological-reports/introduction-annual>（方法の詳細は「Methods」の項目参照）

<https://www.ecdc.europa.eu/en/publications-data/surveillance-systems-overview-2020>
（各国のサーベイランスシステムの概要）

<https://atlas.ecdc.europa.eu/public/index.aspx>（使用されたデータのサブセット入手先）

2020 年は EU/EEA 加盟 29 カ国から赤痢に関するデータが報告された。英国は 2020 年 1 月 31 日に EU から離脱したため、2020 年のデータは報告されなかった。24 カ国が EU の 2002 年・2008 年・2012 年・2018 年のいずれかの症例定義を使用した。EU の 2018 年の症例定義では、2017 年以前のものとは異なり、高度疑い患者を遺伝子型検査によって検査機関確定患者とすることが認められている。デンマーク、フランス、ドイツおよびイタリアでは「その他（other）」に分類される症例定義が使用され、ベルギーでは使用された症例定義が不明であった。

赤痢は EU/EEA 加盟 26 カ国で報告義務疾患となっていた。フランスおよびイタリアでは報告は任意であり、ベルギーでは別の種類のサーベイランスシステムが使用されていた。赤痢に関して、定点サーベイランスシステムを実施したイタリアを除く全ての加盟国が包括的サーベイランスを実施していた。チェコおよびスロバキアはアクティブサーベイランス、その他の全ての加盟国が受動的サーベイランスであった。21 カ国において、医師または病院からの検査データ・疫学データを統合するサーベイランスシステムが導入されていた。

TESSy の他にも、「食品・水由来疾患および人獣共通感染症のための欧州疫学情報共有システム (EPIS-FWD)」を介して、EU/EEA 域内で発生した可能性のある赤痢のクラスターおよびアウトブレイクに関する事例ベースのサーベイランス情報が収集された。

疫学的状況

2020 年は EU/EEA 加盟 29 カ国から赤痢患者が計 1,930 人報告され、このうち 1,806 人が確定患者であった (表 1)。フランス、オランダおよびドイツの 3 カ国の合計確定患者数が全確定患者数の 50.6%【编者注：表 1 から計算すると 49.3%】を占めており、フランスのみで 32.1%【编者注：表 1 から計算すると 31.2%】を占めた。

2020 年の EU/EEA 全体における赤痢確定患者の人口 10 万人あたりの報告率は 0.7 であった。人口 10 万人あたりの報告率が最も高かった国はルクセンブルク (2.1) で、次いでフランスおよびスロバキア (両国とも 1.9) であった (表 1、図 1)。

表 1：国別・年別の赤痢確定患者数および人口 10 万人あたりの報告率（EU/EEA、2016～2020 年）

Table 1. Distribution of confirmed shigellosis cases and rates per 100 000 population by country and year, EU/EEA, 2016–2020

| Country | 2016 | | 2017 | | 2018 | | 2019 | | 2020 | | |
|----------------|--------------|------------|--------------|------------|--------------|------------|--------------|------------|--------------|------------|------------|
| | Number | Rate | ASR |
| Austria | 62 | 0.7 | 54 | 0.6 | 69 | 0.8 | 72 | 0.8 | 25 | 0.3 | 0.3 |
| Belgium | 353 | 3.1 | 353 | 3.1 | 427 | 3.7 | 423 | 3.7 | 115 | 1.0 | 1.0 |
| Bulgaria | 291 | 4.1 | 308 | 4.3 | 235 | 3.3 | 219 | 3.1 | 47 | 0.7 | 0.7 |
| Croatia | 6 | 0.1 | 1 | 0.0 | 29 | 0.7 | 17 | 0.4 | 1 | 0.0 | 0.0 |
| Cyprus | 1 | 0.1 | 0 | 0.0 | 4 | 0.5 | 2 | 0.2 | 0 | 0.0 | 0.0 |
| Czechia | 68 | 0.6 | 166 | 1.6 | 142 | 1.3 | 127 | 1.2 | 72 | 0.7 | 0.7 |
| Denmark | 212 | 3.7 | 137 | 2.4 | 146 | 2.5 | 192 | 3.3 | 51 | 0.9 | 0.9 |
| Estonia | 17 | 1.3 | 16 | 1.2 | 17 | 1.3 | 29 | 2.2 | 4 | 0.3 | 0.3 |
| Finland | 59 | 1.1 | 85 | 1.5 | 111 | 2.0 | 154 | 2.8 | 41 | 0.7 | 0.8 |
| France | 828 | 2.8 | 997 | 3.4 | 1 132 | 3.8 | 1 167 | 3.9 | 564 | 1.9 | 2.0 |
| Germany | 419 | 0.5 | 438 | 0.5 | 655 | 0.8 | 614 | 0.7 | 139 | 0.2 | 0.2 |
| Greece | 72 | 0.7 | 81 | 0.8 | 78 | 0.7 | 104 | 1.0 | 61 | 0.6 | 0.7 |
| Hungary | 23 | 0.2 | 18 | 0.2 | 13 | 0.1 | 45 | 0.5 | 61 | 0.6 | 0.7 |
| Iceland | 0 | 0.0 | 6 | 1.8 | 4 | 1.1 | 4 | 1.1 | 1 | 0.3 | 0.3 |
| Ireland | 84 | 1.8 | 97 | 2.0 | 101 | 2.1 | 121 | 2.5 | 66 | 1.3 | 1.3 |
| Italy | 20 | - | 17 | - | 32 | - | 40 | - | 14 | - | - |
| Latvia | 3 | 0.2 | 3 | 0.2 | 17 | 0.9 | 14 | 0.7 | 3 | 0.2 | 0.2 |
| Liechtenstein | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . |
| Lithuania | 13 | 0.5 | 9 | 0.3 | 21 | 0.7 | 17 | 0.6 | 2 | 0.1 | - |
| Luxembourg | 1 | 0.2 | 9 | 1.5 | 11 | 1.8 | 13 | 2.1 | 13 | 2.1 | 2.1 |
| Malta | 2 | 0.4 | 2 | 0.4 | 4 | 0.8 | 9 | 1.8 | 0 | 0.0 | 0.0 |
| Netherlands | 428 | 2.5 | 410 | 2.4 | 484 | 2.8 | 516 | 3.0 | 187 | 1.1 | 1.1 |
| Norway | 83 | 1.6 | 115 | 2.2 | 102 | 1.9 | 133 | 2.5 | 37 | 0.7 | 0.7 |
| Poland | 15 | 0.0 | 31 | 0.1 | 89 | 0.2 | 34 | 0.1 | 12 | 0.0 | 0.0 |
| Portugal | 13 | 0.1 | 12 | 0.1 | 24 | 0.2 | 8 | 0.1 | 5 | 0.0 | 0.1 |
| Romania | 129 | 0.7 | 122 | 0.6 | 147 | 0.8 | 117 | 0.6 | 15 | 0.1 | 0.1 |
| Slovakia | 145 | 2.7 | 257 | 4.7 | 195 | 3.6 | 146 | 2.7 | 103 | 1.9 | 1.9 |
| Slovenia | 17 | 0.8 | 16 | 0.8 | 26 | 1.3 | 24 | 1.2 | 14 | 0.7 | 0.7 |
| Spain | 180 | 0.4 | 325 | 0.7 | 455 | 1.0 | 512 | 1.1 | 72 | - | - |
| Sweden | 232 | 2.4 | 213 | 2.1 | 259 | 2.6 | 305 | 3.0 | 81 | 0.8 | 0.8 |
| United Kingdom | 1 856 | 2.8 | 2 040 | 3.1 | 2 617 | 3.9 | 3 270 | 4.9 | - | - | - |
| EU-EEA | 5 632 | 1.5 | 6 338 | 1.7 | 7 646 | 2.0 | 8 448 | 2.2 | 1 806 | 0.7 | 0.7 |

Source: Country reports.
 ASR: age-standardised rate.
 .: no data reported.
 -: no rate calculated.

情報源：各国の報告書

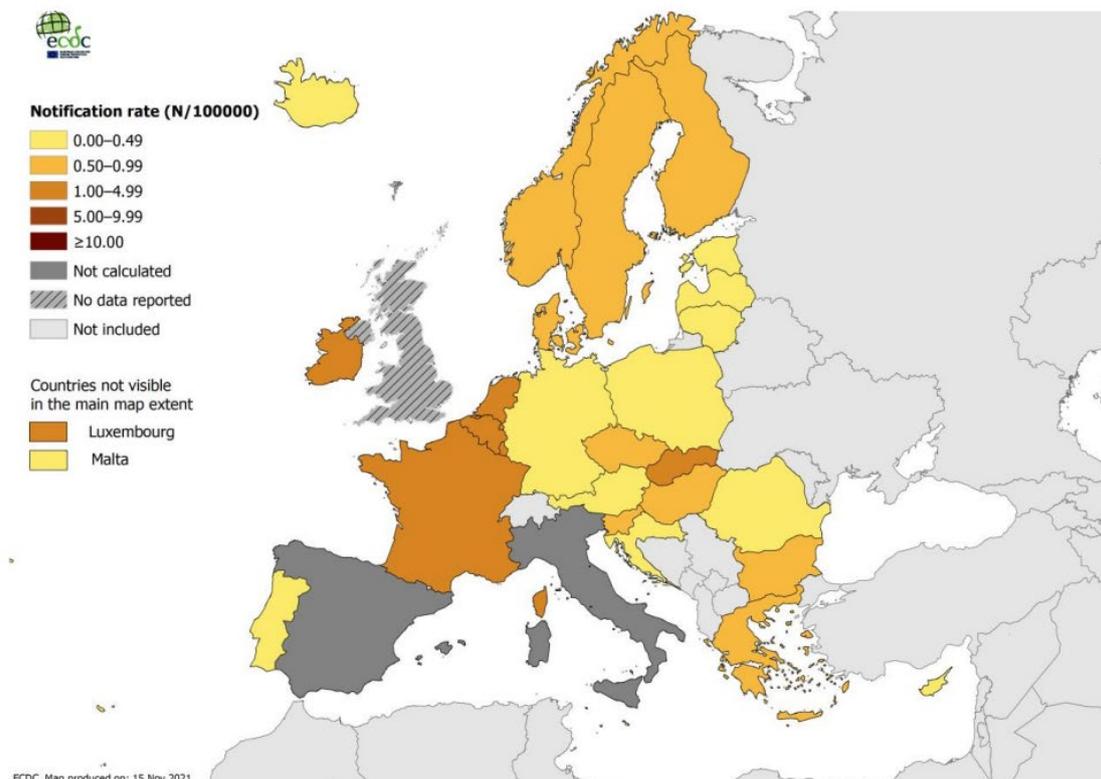
ASR：年齢標準化報告率

「.」：データの報告なし

「-」：報告率未計算

図 1：赤痢確定患者の人口 10 万人あたりの報告率の国別分布（EU/EEA、2020 年）

Figure 1. Distribution of confirmed shigellosis cases per 100 000 population by country, EU/EEA, 2020



Source: country reports from Austria, Belgium, Bulgaria, Croatia, Cyprus, Czech Republic, Denmark, Estonia, Finland, France, Germany, Greece, Hungary, Iceland, Ireland, Latvia, Lithuania, Luxembourg, Malta, the Netherlands, Norway, Poland, Portugal, Romania, Slovakia, Slovenia, and Sweden. No rate calculated for Italy and Spain.

（情報源：オーストリア、ベルギー、ブルガリア、クロアチア、キプロス、チェコ、デンマーク、エストニア、フィンランド、フランス、ドイツ、ギリシャ、ハンガリー、アイスランド、アイルランド、ラトビア、リトアニア、ルクセンブルク、マルタ、オランダ、ノルウェー、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、スロバキア、スロベニア、スウェーデンの各国の報告書。イタリアおよびスペインは報告率未計算）

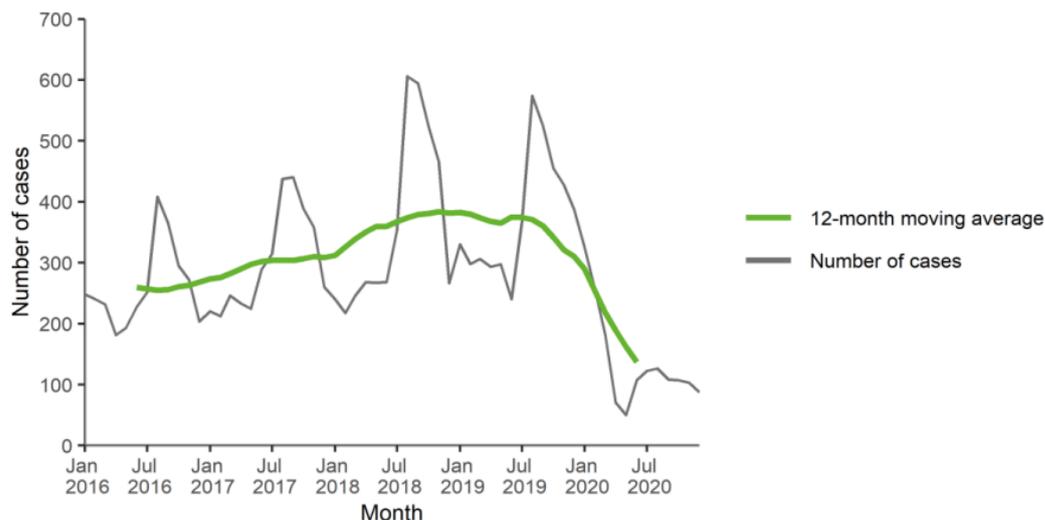
国外旅行に関する情報が得られた確定患者 1,028 人（56.9%）のうち、290 人（28.2%）が国外旅行に関連していた。国外旅行関連患者について、感染した可能性が高い国として特に多く挙げられたのはエジプト、インドネシア、インドおよびマダガスカルであった。

確定患者 1,806 人のうち、疑いのある感染経路に関する情報が得られたのは 236 人のみであった。報告された感染経路は多い順に食品（156 人）、性的接触（64）、ヒト-ヒト（13、母子感染と性的接触は除く）、その他（3）であった。

2019年までとは対照的に、2020年の赤痢確定患者数は2～5月に大幅に減少した(図2、図3)。また、これまでに見られた季節変動と同様に、夏期および秋期に患者がやや増加した(図2)。しかし、2020年の夏期および秋季の報告患者数は、2016～2019年の同時期の最少患者数に比べてはるかに少なかった(図3)。

図2：赤痢確定患者数の月別分布（EU/EEA、2016～2020年）

Figure 2. Distribution of confirmed shigellosis cases by month, EU/EEA, 2016–2020

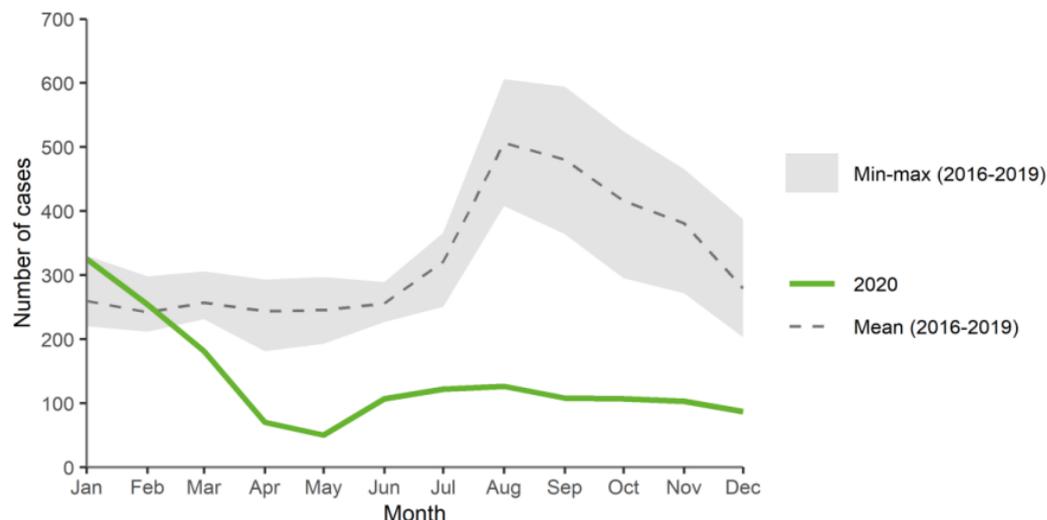


Source: Country reports from Austria, Cyprus, Czechia, Denmark, Estonia, Finland, France, Germany, Greece, Hungary, Ireland, Italy, Latvia, Luxembourg, Malta, the Netherlands, Norway, Poland, Portugal, Romania, Slovakia, Slovenia, Spain, Sweden.

(情報源：オーストリア、キプロス、チェコ、デンマーク、エストニア、フィンランド、フランス、ドイツ、ギリシャ、ハンガリー、アイルランド、イタリア、ラトビア、ルクセンブルク、マルタ、オランダ、ノルウェー、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、スロバキア、スロベニア、スペイン、スウェーデンの各国の報告書)

図 3：赤痢確定患者数の月別分布（EU/EEA、2020 年および 2016～2019 年）

Figure 3. Distribution of confirmed shigellosis cases by month, EU/EEA, 2020 and 2016–2019



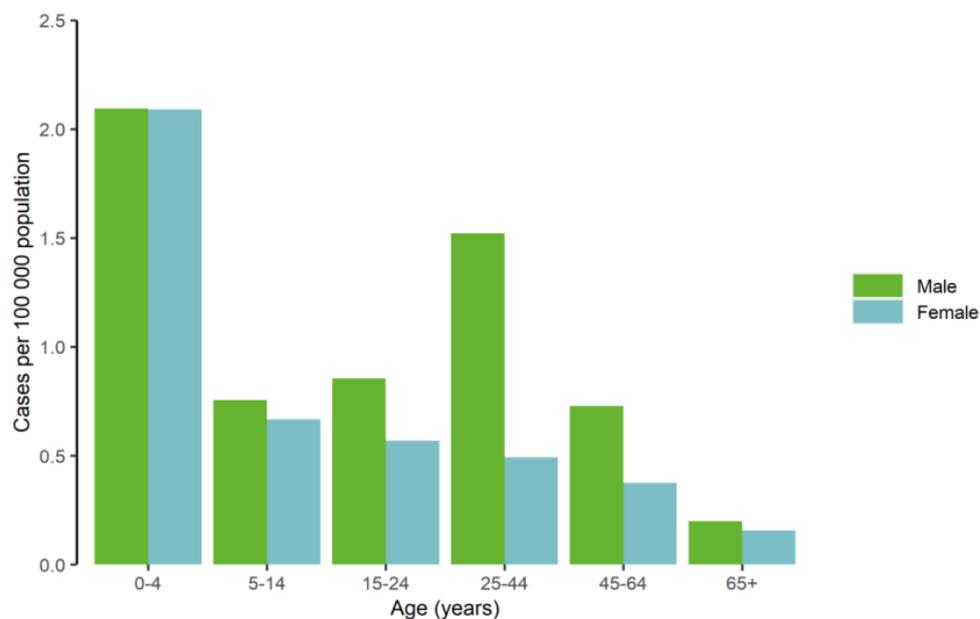
Source: Country reports from Austria, Cyprus, Czechia, Denmark, Estonia, Finland, France, Germany, Greece, Hungary, Ireland, Italy, Latvia, Luxembourg, Malta, the Netherlands, Norway, Poland, Portugal, Romania, Slovakia, Slovenia, Spain, Sweden.

（情報源：オーストリア、キプロス、チェコ、デンマーク、エストニア、フィンランド、フランス、ドイツ、ギリシャ、ハンガリー、アイルランド、イタリア、ラトビア、ルクセンブルク、マルタ、オランダ、ノルウェー、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、スロバキア、スロベニア、スペイン、スウェーデンの各国の報告書）

2020 年の赤痢患者の人口 10 万人あたりの報告率が最も高かった年齢層は「0～4 歳」の小児で 2.1 であった（図 4）。2 番目に高かったのは「25～44 歳」の男性で 1.5 であった。「0～4 歳」の年齢層について、人口 10 万人あたりの報告率が最も高かった国は、スロバキア（21.1）およびブルガリア（7.2）であった。全体での男女比は 1.8 : 1 で、「25～44 歳」の年齢層では 3 : 1 であった。

図 4：赤痢確定患者の人口 10 万人あたりの報告率の年齢層別・性別分布（EU/EEA、2020 年）

Figure 4. Distribution of confirmed shigellosis cases per 100 000 population, by age and sex, EU/EEA, 2020



感染種に関するデータは、確定患者 1,591 人について得られた。このうち最も多く検出された菌種は *Shigella sonnei*、次が *Shigella flexneri* であり、この 2 種の合計が全体の 95.8% を占めた（表 2）。国内感染および国外旅行関連の両方の患者において、*S. sonnei* が最も多かった。*S. flexneri* の血清型については *S. flexneri* 2a が最も多かった（136 人）（*S. sonnei* の血清型は 1 種類であり、血清型で区別されていない）。

表 2：赤痢確定患者の感染菌種別内訳（EU/EEA、2020 年）

Table 2. Distribution of confirmed shigellosis cases by species, EU/EEA, 2020

| Pathogen | Number of cases | Percentage |
|-----------------------------|-----------------|--------------|
| <i>Shigella sonnei</i> | 779 | 49.0 % |
| <i>Shigella flexneri</i> | 745 | 46.8 % |
| <i>Shigella boydii</i> | 47 | 3.0 % |
| <i>Shigella dysenteriae</i> | 20 | 1.3 % |
| Total | 1 591 | 100 % |

Source: TESSy data extracted 8 February 2022

情報源：2022 年 2 月 8 日に TESSy を検索して得られたデータ

表 3 は、赤痢確定患者から分離された *S. sonnei* 株および *S. flexneri* 株の抗微生物剤耐性の概要である。主に、アンピシリンおよびセフトキシムに対する耐性試験が行われてい

た。アンピシリン耐性率は *S. sonnei* および *S. flexneri* の両菌種で 50%を超えたが、第三世代セファロスポリン系抗菌剤への耐性率は低かった。しかし、シプロフロキサシン耐性率が、*S. flexneri* および *S. sonnei* でそれぞれ 18.0% および 30.9% であったことに注目すべきである。トリメトプリム・スルファメトキサゾールまたはアジスロマイシンへの感受性試験が行われた分離株はわずかであった。トリメトプリム・スルファメトキサゾール耐性は、*S. sonnei* では 15 株のうち 14 株であったのに対し、*S. flexneri* では 9 株のうち 2 株であった。アジスロマイシンに対して「非野生型 (NWT, non-wild type)」の表現型を示したのは、*S. sonnei* では 16 株のうち 3 株、*S. flexneri* では 6 株のうち 1 株であった。

表 3：赤痢確定患者由来株の菌種別の抗微生物剤耐性（2020 年）

Table 3. Antimicrobial resistance in isolates from confirmed shigellosis cases by pathogen, 2020

| | | Ampicillin | | Azithromycin | | Cefotaxime | | Ceftazidime | | Ciprofloxacin | | SXT | |
|--------------------|-------|------------|------|--------------|------|------------|------|-------------|-------|---------------|------|-----|------|
| Susceptibility | | N | % | N | % | N | % | N | % | N | % | N | % |
| <i>S. sonnei</i> | R | 181 | 54.8 | NA | NA | 13 | 3.9 | 2 | 2.9 | 21 | 30.9 | 14 | 93.3 |
| | I/NWT | 0 | 0.0 | 3 | 18.8 | 0 | 0.0 | 10 | 14.7 | 0 | 0.0 | 1 | 6.7 |
| | S/WT | 149 | 45.2 | 13 | 81.2 | 317 | 96.1 | 56 | 82.4 | 47 | 69.1 | 0 | 0 |
| | Total | 330 | - | 16 | - | 330 | - | 68 | - | 68 | - | 15 | - |
| <i>S. flexneri</i> | R | 324 | 90.0 | NA | NA | 1 | 0.3 | 0 | 0 | 11 | 18.0 | 2 | 22.2 |
| | I/NWT | 0 | 0.0 | 1 | 16.7 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| | S/WT | 36 | 10.0 | 5 | 83.3 | 359 | 99.7 | 66 | 100.0 | 50 | 82.0 | 7 | 77.8 |
| | Total | 360 | - | 6 | - | 360 | - | 66 | - | 61 | - | 9 | - |

Source: TESSy data extracted 8 February 2022

N – Number of isolates; % – percent of tested isolates; R – resistant; I/NWT – Susceptible, increased exposure or non-wild type; S/WT – Susceptible, standard dosing regimen or wild type; SXT – Trimethoprim-sulfamethoxazole

* Azithromycin classification is based on epidemiological cut-off values and therefore the terminology wild type and non-wild type is used.

情報源：2022 年 2 月 8 日に TESSy を検索して得られたデータ

N：分離株数

%：分離株の割合

R：耐性

I/NWT：「抗微生物剤は増量されているが感受性あり」または「非野生型」

S/WT：「標準投与法で感受性あり」または「野生型」

SXT：トリメトプリム・スルファメトキサゾール

（アジスロマイシンの分類は疫学カットオフ値にもとづいているため、「野生型」および「非野生型」の用語が使用されている。）

アウトブレイクおよびその他の脅威

EU/EEA 加盟 4 カ国（デンマーク、フランス、オランダ、スロバキア）から計 5 件の食品由来赤痢アウトブレイクが、「EU 域内の人獣共通感染症に関する One Health の観点からの報告書（2020 年）（The European Union One Health 2020 Zoonoses Report）」（食品安全情報（微生物）No.7/2022（2022.03.30）ECDC/EFSA 記事参照）に報告された。その他にハンガリーで 2020 年に赤痢アウトブレイクが 3 件発生し、このうち 2 件は小規模な家庭内アウトブレイクで、残り 1 件は長期介護施設で 58 人が発症したものであった（同国ブダペストの国立公衆衛生センターからの私信による情報、2021 年 7 月 26 日）。

公衆衛生への影響

ヒトは赤痢菌の主要な宿主であり、ヒトとヒトとの接触または汚染された食品・水の摂取によって感染する。これまで数十年にわたり、性的接触による赤痢菌感染が報告されている。高所得国では、赤痢の主なリスク集団として、旅行者および男性間性的接触者が特定されている。基本的に、感染予防およびアウトブレイク対策では、糞口感染や性的接触による感染を防ぐための個人の衛生習慣および環境の衛生管理が重要である。多発地域を訪れる旅行者は、旅行中の食品・水由来感染の予防方法に関する一般的な助言を守ることで感染を避けられる。赤痢に対する意識を高めるための対象を絞った情報活動が、高リスク集団における感染の拡散防止に役立つ。

（食品安全情報（微生物）No.12/2023（2023.06.07）、No.6/2023（2023.03.15）、No.3/2014（2014.02.05）ECDC 記事参照）

● 欧州委員会健康・食品安全総局（EC DG-SANTE: Directorate-General for Health and Food Safety）

https://commission.europa.eu/about-european-commission/departments-and-executive-agencies/health-and-food-safety_en

食品および飼料に関する早期警告システム（RASFF : Rapid Alert System for Food and Feed）

https://food.ec.europa.eu/safety/rasff_en

RASFF Portal Database

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/screen/search>

Notifications list

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/screen/list>

2023年8月22日～9月4日の主な通知内容

警報通知 (Alert Notification)

イタリア産有機レモンタイムのサルモネラ属菌、フランス産チーズのリステリア (*L. monocytogenes*)、ポーランド産温燻サーモン(カット)のリステリア (*L. monocytogenes*)、ドイツ産ソフトチーズのリステリア (*L. monocytogenes*) の疑い、フランス産チーズ(ヤギ生乳使用)の大腸菌(O103、O26)の疑い、フランス産家禽肉のリステリア (*L. monocytogenes*)、ポーランド産の生鮮家禽肉のサルモネラ (*S. Enteritidis*)、ポーランド産鶏首皮のサルモネラ (*S. Enteritidis*)、リトアニア産冷凍ブロイラーむね肉のサルモネラ (*S. Enteritidis*、2/5 検体陽性)、ポーランド産ローストチキンケバブのサルモネラ (*S. Enteritidis*)、フランス産ゴートチーズの志賀毒素産生性大腸菌、ベルギー産牛ひき肉の志賀毒素産生性大腸菌 (*stx+*、*eae+*) など。

注意喚起情報 (Information Notification for Attention)

リトアニア産スモークサーモンの喫食に関連したリステリア (*L. monocytogenes* ST155) 感染患者発生、ポーランド産の生鮮鶏もも肉のサルモネラ (*S. Newport*、1/5 検体陽性)、ポーランド産七面鳥肉のサルモネラ、インド産皮むきゴマ種子のサルモネラ (*S. Senftenberg*)、ポーランド産鶏四分体肉のサルモネラ (*S. Newport*)、ウクライナ産冷蔵鶏むね肉のサルモネラ (*S. Infantis*)、フランス産鶏とたいのサルモネラ (*S. Typhimurium*)、スロバキア産(ウクライナ産原材料使用)冷蔵鶏むね肉のサルモネラ (*S. Infantis*、25g 検体陽性) など。

フォローアップ喚起情報 (Information Notification for follow-up)

ベルギー産焼き大豆のサルモネラ、クロアチア産シーバスのサルモネラ属菌 (25g 検体陽性)、イタリア産ビートルートのスナックのカビ、ベルギー産全粒粉トルティーヤ(ラップサンド)のカビ、ポーランド産菜種ミールのサルモネラ、ドイツ産ターキッシュブレッドのカビ、ドイツ産大豆ミール(飼料)のサルモネラ属菌、ベトナム産乾燥キクラゲのセレウス菌、スペイン産冷凍メルルーサのアニサキス、デンマーク産ライ麦パンのカビ、ドイツ産亜麻種子ミール(飼料原料)のサルモネラ、ドイツ産プロテインチーズ(クワルク)のカビ、コロンビア産(ポーランド経由)イヌ用餌の腸内細菌科菌群など。

通関拒否通知 (Border Rejection Notification)

アンゴラ産小麦ブランペレット（飼料用）のカビ、ナイジェリア産ゴマ種子のサルモネラ、エクアドル産エビのコレラ菌、トルコ産ゴマ種子のサルモネラ（*S. Newport*）など。

参考情報 (News)

ベルギー産の卵の喫食によるサルモネラ症の疑いなど。

-
- ドイツ連邦リスクアセスメント研究所 (BfR: Bundesinstitut für Risikobewertung)
<https://www.bfr.bund.de/>

発生は稀で予防可能な疾患：ボツリヌス症に関する Q & A

Rare but avoidable: questions and answers about botulism

15 June 2023

<https://www.bfr.bund.de/cm/349/rare-but-avoidable-questions-and-answers-about-botulism.44719717.pdf> (PDF 版)

<https://www.bfr.bund.de/en/rare-but-avoidable-questions-and-answers-about-botulism-128993.html>

ボツリヌス症は、ボツリヌス神経毒素として知られる毒素を病因物質とする重度の疾患である。これらの毒素は、特定の条件下において、主に食品中および動物用飼料中でボツリヌス菌 (*Clostridium botulinum*) によって産生され、食品や飼料と共にヒトや動物の体内に摂取される。まれではあるが、毒素ではなく菌体自体がボツリヌス症の原因になることもある。ボツリヌス症は、通常は、視力障害・口渇・発語障害・嚥下障害などの特異的な神経障害の原因となり、死につながることもある。ヒトも動物もボツリヌス症に罹患する可能性があり、動物では主にウシのほか、鶏や七面鳥などの家禽類もボツリヌス症に罹患する。

ボツリヌス症に関する Q & A から全質問項目および回答の一部を以下に紹介する。

- ボツリヌス症とは何か？
- ボツリヌス菌 (*C. botulinum*)、*C. botulinum* の芽胞、およびボツリヌス神経毒素の違いは何か？
- ドイツにおけるボツリヌス症の発生頻度はどのくらいか？
- ボツリヌス症はどのようにヒトに伝播するか？

- ボツリヌス症の主な原因食品は何か？
- ボツリヌス症のその他の原因食品は何か？
- 十分に加熱されていない自家製の保存加工食品によるボツリヌス症感染リスクはどのように低減できるか？
- *C. botulinum* の芽胞が問題となるのはどのような食品か？
- 低酸性食品を保存する際に注意すべきことは何か？
- 消費者も蒸気調理器や加圧調理器で食品を保存加工できるか？
- 消費者は自分で保存加工した食品の腐敗をどのように確認することができるか？
- ヒトのボツリヌス症を予防するための最も重要な対策は何か？
 - ・ 保存前に食品を十分に洗浄する。
 - ・ 適切な加熱により食品中の *C. botulinum* の芽胞を死滅させる。
 - ・ *C. botulinum* の増殖を防ぐ環境を作る。
 - ・ 膨張した缶詰製品は開封せずに廃棄する。
 - ・ 開封済みの瓶詰め容器入り食品は喫食しない。
 - ・ 保存食品は必要に応じて喫食の直前に 100°Cまで十分に再加熱する。
 - ・ 自家製のハーブ油や野菜の油漬けなどは冷蔵保存し、調理の翌日以内に喫食する。
 - ・ 塩漬け乾燥魚は喫食直前に十分に加熱する。
 - ・ 1歳未満の小児にハチミツを喫食させない。
- ボツリヌス症は家畜ではどのくらい蔓延しているか？
- 病気の動物をとさつして食品に加工することは可能か？
- ウシの慢性（内蔵型）ボツリヌス症とは何か？

（食品安全情報（微生物）No.6 / 2012（2012.03.21）BfR 記事参照）

● ProMED-mail (The Program for Monitoring Emerging Diseases)

<https://promedmail.org>

コレラ、下痢、赤痢最新情報 (20) (19)

Cholera, diarrhea & dysentery update (20) (19)

30 & 29 August 2023

下痢

| 国名 | 報告日 | 発生場所 | 期間 | 患者数 | 死亡者数 |
|-----|------|-----------------|---------|-----|------|
| インド | 8/28 | オディシヤ州 Bolangir | 直近 7 日間 | | 2 |
| イラク | 8/28 | クルディスタン地域 | 8/27～ | 35 | |

食品微生物情報

連絡先：安全情報部第二室